



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：鈴木 富雄
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055
E-mail j pca@a-youme.jp
HP <http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/index.html>

ニュースレター No.52 (2026.6)

報告：JPCA2026現地開催！

島田 史生（大阪医科薬科大学病院 総合診療科／高槻市）



第17回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（JPCA2026）が、5月29日から31日までの3日間にわたり京都で開催されました。参加登録者数7,000名超、会場参加者5,000名超と、JPCA史上最大規模の学術大会となりました。このような大会を大きな混乱なく終えることができたのは、実行委員会や大会事務局の皆さまをはじめ、とりわけ近畿ブロック支部の皆さまのご尽力のおかげです。改めて心より御礼申し上げます。

今大会では、これまでプレ企画的な位置づけであった金曜日にも複数のセッションを配置しました。参加状況を心配していましたが、どの会場も盛況で、学会の活気と勢いを改めて実感しました。

数ある企画の中でも、私が特に印象深く感じたのは理事長講演と大会長講演です。お二人の歩みを通して学会の歴史や発展の過程を知ることができ、大変感銘を受けました。講演を拝聴しながら、学会とは多くの人々の思いや挑戦、そして「つながり」によって支えられているものだと改めて感じました。

私自身は実行委員としてプログラムチームに所属し、教育コードを活用した企画採択や、登壇回数を原則2回までとする取り組みに携わりました。これにより、より幅広い学びの機会と新たな登壇者との出会いにつながったのではないかと考えています。

6月22日からはオンデマンド配信も開始されています。学術大会で生まれた学びや交流が、今後も多くの会員の実践や研究、そして新たなつながりへと発展していくことを願っています。

特集1：近畿の話題（今回は奈良から）

第1回 奈良県総合診療キャリアフォーラム開催報告

天野雅之（南奈良総合医療センター総合診療科部長／吉野郡大淀町）

2026年2月、奈良県の総合診療の魅力を生徒や臨床研修医へ伝える取り組みとして、「奈良県総合診療キャリアフォーラム」を奈良県庁と連携して開催しました。プレゼンターを含め約30名が参加し、活気ある学びの場となりました。

へいせいとかとりクリニックの阪本宗大先生の司会のもと、まず天野より「奈良で総合診療医になろう！」と題したオープニングリマークスをお届けしました。奈良県における総合診療の現状と可能性、そしてこの地で総合診療医を目指す意義についてお話しし、会全体の導入としました。続くクリニカルレクチャーでは、天理よろづ相談所病院の長野広之先生が「臨床推論を見える化するコツ伝授します！」をテーマに、診断の思考プロセスを可視化する具体的な手法を紹介してくださいました。参加者から高い関心が寄せられた、実践的な講演となりました。

後半のパネルプレゼンでは、キャリアステージごとに3名の先生方からご発表いただきました。南奈良総合医療センターの中島梨沙先生が学生・研修医から専攻医1年目の過ごし方を、奈良県立医科大学附属病院の藤中加奈先生が専攻医2年目から3年目の視点を、土庫病院の塩尻祐哉先生が専門医試験を経た専門医としての歩み方をそれぞれ語ってくださいました。リアルなキャリア体験談は、若手医師の皆さんに大きな共感と刺激を与えたようです。続くワールドカフェトークでは参加者どうしが自由に語り合い、キャリアに関する本音の対話が生まれました。最後に、奈良県立医科大学総合医療学講座教授の吉本清巳先生からご挨拶をいただき、充実した半日が締め括られました。



総合診療は「問題設定」と「問題解決」の両輪で患者にとって最適な状況を共創する診療実践であり、日常の健康問題から診断困難例、複雑事例、地域での多様なニーズまで幅広く扱っています¹⁾。専門性は広大ですが、根底には「その人らしさを尊重し、患者と共に歩む」という一貫した姿勢があり²⁾、それを学べる環境があることをお伝えしました。近畿の総合診療・プライマリケアをさらに勢いづけられるよう、All NARAで引き続き近畿ブロックに貢献していきたいと思えます。

1) Amano M, Watari T, Shimizu T. The clinical roles of generalists in Japan : A descriptive model of problem setting and problem solving. J Gen Fam Med. 2025 Jun 30;26(6):501-503.

2) 天野雅之. 19番目の専門医、総合診療医の仕事とは？ 医学書院 医学界新聞2025年 第3577号

報告：近畿ブロックStart-up meeting 2026開催

松島 和樹（神戸総合診療・家庭医療プログラム 川崎病院・川崎在宅クリニック／神戸市）

2026年5月2日（土）に、近畿ブロックStart-up meeting 2026を開催しました。2025年度よりグランフロント大阪を使用しています。参加者は70名で、内訳は学生10名、初期研修医6名、新専攻医17名、2年目以降の専攻医6名、多職種1名、指導医30名でした。

内容は下記の通りです。

13:15～13:30 受付

13:30～14:00 開会挨拶、総合診療について（大阪医科薬科大学 鈴木富雄先生）

14:00～15:00

C05：新専攻医対象 総合診療の学び方とサバイバルスキル（関西家庭医療学センター 北川景都先生）

C06：初期研修医・学生向け企画

C07：専攻医2年目以上・多職種向け タイムマネジメントについて（南奈良総合医療センター 天野雅之先生）

15:00～16:00 全員ごちゃまぜ！ワールドカフェ

16:00～16:30 クロージング

終了後、懇親会

アンケート結果は非常に好評でした。学術大会と同じ月ということもあり、参加しづらい方もいらっしゃったかもしれませんが。また機材などの関係で不便を感じられるところもあったかもしれませんが、申し訳ありません。近畿ブロックではこの会を単発で終わらせるのではなく、その後のKONPASSを用いた継続支援が大事だと考えています。特に専攻医のPF作成支援や若手指導医の支援に力を入れていきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



特集2：2026、2027年度 理事監事あいさつ

現場から生まれる問いを臨床研究につなげる

岡田 浩（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系予防医療学分野／京都市）



このたび、はじめて理事に初めて選出いただきました岡田浩です。このような貴重な機会をいただきまして心より感謝申し上げます。

私のバックグラウンドは薬剤師ですが、最初のキャリアは小・中学校に10年ほど勤務していました。その後、薬剤師として地域の薬局で10年間働いておりました。薬局で日々患者さんと向き合う中で、地域の病気を持ちながら生きる方々にとって、薬局でのセルフケア支援の重要性と可能性を実感し、それを研究で明らかにすることを始めました。その後、公衆衛生専門職大学院で学んだ後、カナダ・アルバータ大学にて地域薬局を基盤とした臨床研究に取り組みました。帰国後は和歌山県立医科大学薬学部を経て、現在は京都大学にて地域における臨床研究に取り組んでいます。

本学会は多職種がともに学び、地域のプライマリ・ケアを支える大切な場であると感じています。薬剤師の理事として、地域薬局で働く薬剤師が本学会に参加し、医師、看護師、その他の専門職と連携しながら、地域医療により貢献できるような活動を進めていきたいと考えています。また、地域医療の現場から生まれる問いを臨床研究につなげ、実践の価値を社会に示していくことにも力を尽くしていきたいと思っております。

今後ともご指導、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

温かなつながりと前向きなエネルギーを、学会活動へ

鈴木 富雄（大阪医科薬科大学病院 総合診療科／高槻市）

みなさんこんにちは。大阪医科薬科大学 総合診療医学教室の鈴木富雄です。

このたび、日本プライマリ・ケア連合学会の理事に再び選任いただき、2026年4月より新たな2年間の任期を務めさせていただくこととなりました。2016年に初めて理事を拝命して以来、今回で6期目となります。これまで多くの皆様に支えていただきながら、理事として学会活動に携わる機会をいただけてまいりましたこと、心より感謝申し上げます。

前期には、予防医療・健康増進・産業保健委員会の委員長、感染症委員会や大学ネットワーク委員会の委員、近畿ブロック支部長などの役割を担わせていただきました。また、2026年5月には京都国際会館において第17回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会を大会長として開催させていただきました。全国から本当に多くの皆様にご参加いただき、プライマリ・ケアに携わる皆様の熱意と、本学会の大きな力をあらためて実感する機会となりました。大会を無事に終えることができましたのも、学会員の皆様、理事・役員の方、実行委員・運営スタッフ、そして近畿ブロックをはじめとする多くの関係者の皆様のお力添えのおかげです。あらためて深く御礼申し上げます。



今回の学術大会では、「つながる、つなげる。つなげる、つながる」というテーマのもと、人と人、地域と地域、専門職と専門職、そして現在と未来をつなぐプライマリ・ケアの可能性について、多くの皆様と共有することができました。この大会で生まれた温かなつながりと前向きなエネルギーを、これからの日々の学会活動へとしっかりつなげていきたいと思っております。

今期も、引き続き近畿ブロック支部長を務めさせていただくことになりました。近畿ブロックの先生方と力を合わせ、ベテランの先生方と若手医師・学生、多職種の方々が学び合い、語り合い、つながることのできる場をさらに育てていきたいと考えています。

理事6期目という責任の重さを感じつつも、これまで支えてくださった皆様への感謝を胸に、粛々とそして誠実に務めてまいります。今後とも、皆様方のご指導、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

多職種のつながりという大きな花を咲かせたい

竹内 あずさ (くるみ薬局/河内長野市)



このたび、2期目の理事に選出していただきました竹内あずさです。

大阪南部に位置する河内長野市の保険薬局に勤務する薬局薬剤師として、地域医療に携わりながら学会活動を続けております。前期は、プラネタリーヘルス委員会委員長およびプライマリ・ケア認定薬剤師制度委員会副委員長を務めさせていただきました。そして今期も引き続きその役割を担わせていただくこととなり、心より感謝申し上げます。

プラネタリーヘルス委員会では、気候変動や環境問題と健康との関わりについて、学術大会やセミナーを通じて会員の皆さまと学びを深めてまいりました。また、認定薬剤師制度委員会では、プライマリ・ケアを実践できる薬剤師の育成と、より魅力ある認定制度づくりに取り組んでおります。

近畿ブロックでは、ニュースレター委員として他職種の皆さまの声をお届けするとともに、今年の京都学術大会では実行委員として大会運営に携わりました。

私は、学会の魅力は多職種が職種の垣根を越えて学び合い、支え合えることにあると感じています。これからも医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職や学生の皆さまが気軽につながり、協働できる場づくりに努めてまいります。

近畿ブロックに、多職種のつながりという大きな花を咲かせられるよう、より積極的に活動してまいります。今後ともご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

これから10年、恩返しをしたい

松井 善典 (浅井東診療所/長浜市)

「これから10年、恩返しをしたい」――これが立候補を決めた時の素直な思いであり覚悟でした。当時学生の私にとって、前身の家庭医療学会の存在や活動は大きな支えでした。その後、PC連合学会となりVer1.0の2期生として専

門医を取得し、現在はその指導医・プログラム責任者として働くことができます。皆様もそうですが私も人生の大きな文脈にJPCAがずっと存在しています。そして今も滋賀の山奥に専攻医が集い、同僚に認定看護師がおり、門前の認定薬剤師と連携できている。こうした日々のケアや地域連携が存在しているのも、JPCAのおかげだと実感しています。

これから学会理事として、これまでの恩や感謝をエネルギーに、今出会っている学生さんたちや専攻医の皆さんの次世代に向け、学会がさらなる安定と成長を遂げ、そして社会的な信頼と存在感を高めることに貢献したいと思っています。次期体制から委員長となる「医療の質・患者安全」と「島嶼・へき地」を起点に様々な活動を展開し、近畿ブロックのベテランから若手までの分厚いメンバーの皆様と、一緒にプライマリ・ケアの学術団体として楽しく学びたいと思っています。

ただ、まだまだ足りない部分も多いなと実感しており、これから内省を深め、政策や他分野からも見識を高めつつ、様々な課題や取り組みを真摯に進めてまいりますので、立場や年齢を問わず、数多くのご指導・ご意見を頂けると幸いです。(写真で掛け軸を持っているのが筆者です。)



2027年は福岡でお待ちしています

松島 和樹 (神戸総合診療・家庭医療プログラム 川崎病院・川崎在宅クリニック/神戸市)

こんにちは。このたび2期目の理事に選出いただきました松島と申します。

私は今、卒後16年目で家庭医療専門医・在宅専門医・総合内科専門医として兵庫県神戸市にある川崎病院という270床規模の病院を軸に勤務し、神戸総合診療・家庭医療専門医プログラムの運営を行っています。2026年度から、毎週水曜日に兵庫県内を中心とした家庭医療・総合診療に関わる人・興味がある人を対象にオンラインレクチャーシリーズを開催しています。よろしければQRコードよりご登録ください。



学会では、実践誌編集委員会の担当理事、専門研修支援委員会の副委員長、そして今期より専門医部会の担当理事を務めることとなりました。近畿ブロッ

クでは、先日開催されましたStart-up meetingやドクター体験プロジェクトの統括を行っております。さらに、2027年のJPCA学術大会@福岡(大会長:吉田伸先生)で実行委員長を

務めております。素晴らしい京都大会をさらに超えることができるよう、精一杯頑張りますので応援&ご参加のほど、よろしくお願いいたします!

「そこに暮らす人々」の幸せにお返ししたい

三澤 美和 (大阪医科薬科大学病院総合診療科/高槻市)

この度、日本プライマリ・ケア連合学会の理事に就任させていただきました。医学部5年生のときに「家庭医療」に出会い、遠く離れた仲間と励まし合いながら研修を重ねて20年あまりが経った今、このよう役目をさせていただけることに心から感謝申し上げます。理事という大役を自分が担えるのか数年来悩みました。家庭や仕事との3両立や、自分が日本のプライマリ・ケアを背負う覚悟ができているのだろうかとか、様々思いました。しかし、50歳を目前に自分が残りの人生でこの業界に何が残せるのか、と考えたときに、少しでもこの組織を大きくして、どんな職種の人でも生き生きと現場で仕事をしてい

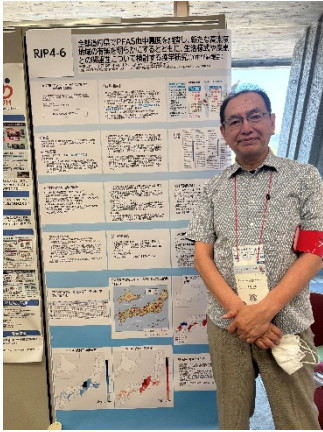


けるような仕組みを作る一端を担うことが、残りの家庭医人生に課された宿題のような気がしました。新人理事としてはありますが、学会においてダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進委員会、広報委員会、生活習慣病・慢性疾患ケア委員会を担当させていただくことになっております。自分のこれまでのキャリアを最大限生かせ

るよう努力しつつ、新しいことにも挑戦していきたいと思えます。大空にピョンと飛び立つような気持ちもあり、地に足つけて一步を踏み出す気持ちもあります。「そこに暮らす人々」の幸せにお返ししていけるよう頑張りますので今後ともよろしくお願ひいたします。

多様性と公正を意識して発言したい

大島 民旗 (公益財団法人淀川勤労者厚生協会理事長 相川診療所所長・OCGFP/吹田市)



2026年度・2027年度も監事に選出していただきました。これで3期目となります。1期目は伴信太郎先生とペアで大いに学び、2期目は松村真司先生と組むことになり「真面目な方」を担当することになり、今期も同じ監事2名となります。

この役割は学会が正常に運営されているかどうかを監査するという私にとっては分不相応な役目なのですが、日本の中で大きなウエイトを占める中小規模病院、そして診療所で働いてきた視点から、多様性と公正を意識して発言できればと思えます。

ちょうどこの6月から改定された診療報酬ですが、急性期病院に偏重し診療所はむしろ厳しくなる部分も多くなっています。どうも政治×世間が「開業医は楽しんで儲けてる」風な見方をしているくらいがあり、広範な質の高いプライマリ・ケアが提供されてこそ大規模急性期病院も楽になり費用対効果も優れているということが十分見えていないように思えます。

先日の第17回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会では、各地での実践をもとにした地域からの胎動を強く感じることができました。この流れを日本のプライマリ・ケアの発展につなげることができ、より多くの若い世代が総合診療・家庭医の道に進むための、何かお手伝いができればと思えます。

最後に生命を守る医師として、気候正義と平和へもささやかながら貢献できるよう、微力ですが関わればと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

個人活動報告 : WONCA APR 2026 Iloilo 参加報告

佐和 明裕 (奈良県立医科大学 総合医療学/橿原市)

2026年3月24日~27日にWONCA Asia Pacific Regional Conference 2026がフィリピンのイロイロシティで開催されました。関西はまだ薄手のコートが手放せない寒さでしたが、飛行機で4時間のフィリピンは打って変わり真夏の日差しです。さて、今年の学会テーマは“Family Physicians are Gifted to Give”です。フィリピンの家庭医たちが提供する、思いやりに満ち、患者中心で地域社会に根差したケアの根底を支えるのは、フィリピンの人々の心に宿る“Paglingap”(あたたかなケアや共感を意味するタガログ語)なのだと、学会ホスト国としての準備、学術大会プログラム、座長の先生方のフレンドリーさ、診療所見学での診療風景など、様々な場面で気づかされました。私は今回、ミャンマー、マレーシア、台湾の先生方とともに、遠隔診療におけるコミュニケーション技術に関するワークショップを開催し、アジア太平洋地域からの多くの参加者たちと、遠隔診療においてどのように“思いやりのあるケア”が提供できるかを議論しました。私たちの日常診療と大きく異なるセッティングや文化的背景をもつ参加者たちと活発に意見交換ができるのは、WONCAに参加する大きな魅力の一つですが、これだけではありません。学術的な学びだけでなく、新しい価値観に触れて感じたこと、世界の家庭医たちや国際的リーダーからの刺激、そして何よりも、地域で奮闘しているのは自分ひとりではなく、世界中に同じ志をもった同僚がいるのだと再認識できることが、WONCAでの収穫です。

また、WONCAにはYDM (Young Doctors' Movements) という若手医師部会があり、その日本代表を現在私が担当しております。WONCA YDMのアジア太平洋支部であるThe Rajakumar Movement主催の若手医師向けプレカンファレンスが、年次学術集会にあわせて毎年開催されています。各国の若手医師活動の報告に始まり、デジタル時代

の自己ブランディング、医療者自身のケア、共感的ケアに関してレクチャーとワークショップを行い、その後の懇親会では、アジア太平洋の若手医師たちと親睦を深めました。

2026年のWorld Family Doctor Dayのテーマである、Compassionate care in a digital worldにちなみ、本学術大会でのWONCA前会長Donald Li先生によるスピーチの一節を紹介します。“Let machines assist us, but let us not surrender our identity.” AIなどテクノロジーが発達した現代においても、それに終始するのではなく、私たち家庭医のアイデンティティーである継続的な関係性を重視したケアを忘れるべきではないと説かれました。4日間にわたる学会を終え、家庭医として今後どのようなケアを提供していくべきかを学び、明日からの日常診療へのエネルギーに満ちて帰国便に乗り込みました。

来年のWONCA APRは、2027年4月22日～25日に香港で開催されます。香港は関西空港からのアクセスが良好で、魅力にあふれた美食の都市です。若手医師のみならず、是非ともWONCAに演題登録し、またYDMプレカンファレンスにもご参加ください。アジア太平洋の多くの仲間たちとともに、質の高いケアやより良い家庭医療学分野の研究を目指しましょう。



報告：近畿ブロック薬剤師WG 定例ミーティング開催

「『そこ・そこ』で輝く地域薬剤師を目指して」

大石 和美（有限会社丸山薬局／東近江市）

2026年4月10日、近畿ブロック薬剤師WG定例ミーティングを開催しました。今回のテーマは「地域における薬剤師の役割を探る」。話題提供者として、ファースト薬局（滋賀県）の口井創太先生をお迎えし、ご自身の経験をもとに「プライマリ・ケア薬剤師とは何か」についてお話しいただきました。

口井先生は、ドラッグストア勤務時代から現在に至るまでのキャリアを振り返りながら、滋賀家庭医療センターでの研修経験や、多職種との協働を通じて得られた学びを紹介されました。医師や看護師、介護職などと連携しながら患者さんを支える中で、「つながること」「つなぐこと」がプライマリ・ケアの本質ではないかとの考えが共有されました。

また、口井先生は実践誌『プライマリ・ケア』2026年冬号において、「『そこ・そこ』で輝く－地域に根ざす薬剤師を目指して－」をテーマに執筆されており、今回の話題提供でも、地域住民の身近な相談相手として日々の暮らしに寄り添う薬剤師の姿が語られました。特別な場所や役割を求めるのではなく、それぞれの地域、それぞれの現場で自分らしく力を発揮することの大切さが参加者の共感を集めました。



ディスカッションでは、地域医療機関との連携や在宅医療への関わりについても話題となり、地域での医療・介護連携の実践例が紹介されました。参加者からは、都市部と地方部における薬剤師業務の違い、OTC医薬品の活用、患者とのコミュニケーション、多職種連携の難しさや魅力などについて活発な意見が寄せられました。

今回のミーティングを通じて、プライマリ・ケア薬剤師の役割は単に薬物療法を支援するだけでなく、患者・家族・地域・多職種をつなぐ存在であることを改めて確認する機会となりました。そして、「『そこ・そこ』で輝く地域薬剤師」という言葉が示すように、それぞれの地域で住民に寄り添いながら実践を積み重ねることこそが、プライマリ・ケア薬剤師の専門性とアイデンティティにつながることを参加者全員で共有する時間となりました。

報告：つながる、つなげる — 近畿ブロック支部看護師部会発足に向けて —

水川 真理子（神戸市看護大学いちかん看護開発センター／神戸市）

本学会の看護師部会は2022年に発足し、2026年6月現在で看護職会員は700名に達しました。また、学会認定プライマリ・ケア看護師制度は2019年に設立され、現在までに120名が誕生しています。これまでは全国の看護職がオンラインで学び交流する機会が中心でしたが、今後は各ブロック支部において、顔の見える関係づくりを大切にしながら、地域の実情に応じた活動を進めていくこととなりました。



近畿ブロックでは、2025年秋より11名の委員で準備を進め、このたび2026年度から本格的に看護師部会の活動を開始することとなりました。看護師部会では、プライマリ・ケアに

携わる看護職や学会認定プライマリ・ケア看護師の仲間を増やし、多職種連携をさらに推進することで、看護の質向上と役割拡大を図り、その学びを地域社会へ還元したいと考えています。今年度は、第17回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会において交流会を開催し、学びの共有と今後の活動について意見交換を行いました。今後は、多職種によるオンライン事例検討会や施設見学会なども企画しています。

看護職の皆さまには、ぜひ部会活動にご参加いただき、ともに学び、支え合う仲間になっていただければ幸いです。また、医師、薬剤師をはじめとする多職種の皆さまには、地域のより良いプライマリ・ケアの実現に向けて、ぜひ一緒に学び、協働していただけますようどうぞ宜しくお願いいたします。

【P-FES 2027】2026年度近畿ポートフォリオ発表会・日程決定のご案内

竹内 崇（たいしょう生協診療所・OCGFP／大阪市）

第19回近畿家庭医療・総合診療専攻医ポートフォリオ発表会（P-FES：Portfolio Festival）開催についてのお知らせです。現地開催の再開から3年目となり、ますます多くの方にご参加いただき、ご好評をいただいております。

今年度は、**日程：2027年2月13日（土）** 場所：大阪医科薬科大学（一部ハイブリッド形式）

実行委員長：水谷 肇（大阪医科薬科大学総合診療科）にて開催いたします。

リアルならではの空気感や熱量、気さくな交流と対話を大切にしながら、より実りある時間をともに過ごせればと考えています。毎年近畿の各プログラムの専攻医や多職種の方々に、ポートフォリオ詳細事例報告の事前提出をお願いしております。本会を、ポートフォリオ完成のペースメーカーとしてぜひご活用ください。所属施設以外の指導医からのフィードバック、他の専攻医・多職種による発表は、専攻医に限らず多職種や指導医の皆さまにとっても、新たな視点を得る貴重な機会となるでしょう。

今年度も、「優秀賞を受賞したポートフォリオの大会場での発表」「領域のスペシャリストによるレクチャー」「ざっくばらんかつ真面目な交流会」といった楽しみながら学べる企画を構想中です。まずは日程の確保をどうぞよろしくお願いいたします！

【スケジュール概要】以下具体的な日程を追ってご連絡いたします。

※当日発表者

- 募集対象：JPCA近畿ブロック専攻医・専門医／全国多職種
- 登録期間：2026年11月上旬～2026年11月下旬
- ポートフォリオ詳細事例報告書提出期限：2026年12月初旬

※聴講参加の登録：2026年12月中旬受付開始

※オンライン参加の方は、ご視聴いただける会場に制限があることを予めご了承ください（今年度も単位申請予定）。

※託児所の利用が可能です。ご利用を希望される方は後日送信する参加登録アンケートにご回答ください。

※近畿ブロックに限らず皆さまのご参加も大歓迎です！

※本会は、日本プライマリ・ケア連合学会の単位取得対象（予定）です。

認定医・専門医更新のための単位 3.5単位 Off-the-job 3.5単位（領域臨床）プライマリ・ケア認定薬剤師の認定単位 2単位

※本会は、総合診療専門医の更新要件における、「D.領域講習⑦の単位（1時間で1単位、2時間以上で2単位（上限））」に該当します。

お問い合わせ先：P-FES 2027 実行委員一同 k.portfolio.festival@gmail.com

☆近畿専攻医だけの研修パスポート「KONPass」

<https://konpass2026.peatix.com/view>

パスポート購入者は近畿ブロックのイベント参加、近畿ブロックの教育資料、歴代優秀ポートフォリオへのアクセス、LINEコミュニティの加入、オンライン指導の特典を、1年間3000円の費用で利用できるパスポートです。

毎月第一木曜日21時から、ポートフォリオブラッシュアップセミナーを行っています。

専攻医にかぎらず指導医の先生（指導医は費用0円!!）も、ぜひこの機会にご利用ください。

ポッドキャスト

●近畿ブロックのレジェンドたちのライフヒストリー&感動秘話

- # 1 石丸裕康先生
- # 2 木戸友幸先生
- # 3 中山（畔田）明子先生
- # 4 雨森正記先生
- # 5 鈴木富雄先生
- # 6 松井善典先生
- # 7 竹中裕昭先生
- # 8 三澤美和先生
- # 9 3人の専攻医たち
- # 10 吉本清巳先生、および第35回近畿地方会の実行委員会のみなさま
- # 11 大島民旗先生、川島篤志先生、稲岡雄太先生（第36回近畿地方会大会長他）
- # 12 武田以知郎先生
- # 13 廣西昌也先生、梶本賀義先生（第37回近畿地方会大会長、実行委員長）
- # 14 角田秀樹先生
- # 15 官澤洋平先生
- # 16 合田 建先生
- # 17 鈴木富雄大会長他 JPCA2026実行委員会より 2026.3時点での進捗 5本



[Legend of GP in KPCA](#)



今後も続々と配信予定です。乞うご期待！！

その他

●代議員会開催

2026年度は7月5日開催予定です。

●2026年度ドクター体験プロジェクト始動！

今年の夏も、プライマリ・ケアに触れたい医学生さん向けのドクター体験プロジェクトを実施します。多くの学生にとって、熱い夏になるのではないかと今から楽しみです。ご協力いただいた先生方本当にありがとうございます。

ニュースレター編集委員大募集！！

長 哲太郎（コープおおさか病院・OCGFP／大阪市）

近畿ブロックニュースレター編集部では、近畿ブロック支部や各府県支部の取り組み、会員のみなさまの近況などを中心に編集作業に取り組んできました。

3ヶ月毎、年4回の発行を行っており、本誌2026年夏号は52号にあたります。

引き続き、様々な立場、役割を担っている会員のみなさまの活動を幅広く取り上げていくことができると考えております。

ニュースレターの編集にご興味のある方、一緒に面白い記事を作成してみようかなと思った方は、編集部 kentaroasakura@gmail.com 朝倉 までご一報下さい。

[支部からのご連絡] **ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！**

近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました！

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から)

→ 詳細は、上記ホームページをご参照願います。

ホームページ担当：梶原信之

編集後記

この編集後記を書いている今、W杯でサッカー日本代表がスウェーデンと引き分けて、ノックアウトステージでブラジルと相まみえる状況になっています。このニュースレターが発行される頃には、きっと勝敗の結果は出ていると思いますが、あえてこの試合前のスリリングな瞬間を残しておきたいと思っています。

「がんばれ、ニッポン！」

ジョホールバルの歓喜をリアタイ応援していた方々も、隔世の感に胸が熱くなっているのではないのでしょうか。

今回の誌面も、日本代表に負けないくらいアツい内容になっています。熱気溢れるJPCA2026現地開催報告から、熱意に満ちた理事監事挨拶、そして会員皆様の情熱的な取り組み。「みなさま素晴らしい！」と、自らの日常に向き合う活力になるのが、このニュースレターの不思議な魅力です。

まだまだ夏は始まったばかりですが、会員の皆様が健やかに過ごされることをお祈りして。(C) 2026.6.27